



縫わない 大動脈弁置換術開始

心臓血管外科部長
中村 嘉伸

大動脈弁狭窄症に対する治療法は、従来の外科開胸手術に加え、カテーテルによる治療（TAVI）が2019年に当院で開始されました。TAVIを開始し良好な結果を得ておりますが、今回この開胸とカテーテルを組み合わせた治療Ⅱ「スーチャレス弁」による治療を2021年3月に**島根県下最初の施設**として開始しました。

スーチャレス弁とは、縫わない生体弁を用いて、人工弁置換手術を行う方法です。手術で縫う時間が短縮されることで、心臓を停止する時間が短くなります。手術の時間が短くなることで患者さんへの負担が減り、透析患者さん、75歳前後の高齢者さんなど手術適応の対象が広がることになります。その他、TAVIに比べ生体弁の耐久性が長い、大動脈弁閉鎖不全症等の合併症が少ないなどの利点もあります。

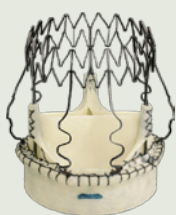
これで当院では、**大動脈弁狭窄症に対する全ての治療法を提供できるようになりました**。その他不明な点がありましたら遠慮なく心臓血管外科までご相談ください。

縫合が必要な生体弁

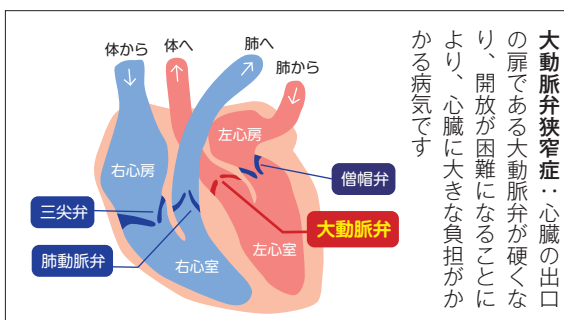


Edwardsライフサイエンス様より提供

縫合のいらない生体弁



Livanova様より提供



Clinical Department

診療科紹介

麻 酔 科

こんにちは、麻酔科です。

私たち麻酔科医は、厚生労働省麻酔科標榜医7人、そのうち日本麻酔科学会専門医6人、指導医2人（重複あり）を中心に、手術を受けられる患者さんの術前診察、麻酔管理、術後診察を行っています。

多くの手術では体にメスを入れるため、痛みと大きなストレスを伴います。痛みとストレスは術後の回復にも大きな影響を与えることがあります。そこで痛みを感じなくさせ、ストレスから患者さんの体を守ることが麻酔の役割です。麻酔は手術が安全に行えるように、手術中の患者さんの全身状態を維持することを目的とした医療行為

です。

まず、術前診察です。当院では月・木曜日の週2日、麻酔科外来で大手術を受けられる患者さん、全身状態に問題となる合併症を持った患者さん、比較的全身状態良好で、休日に入院となる患者さんの術前診察を予約制で行っています。麻酔をするのに必要な問診、麻酔・全身管理に必要な血液検査や画像検査、気道確保や区域麻酔施行予定の場合には難易度の評価に必要な診察をしています。これらの診察をもとに、全身状態・手術方法などを考慮して麻酔・周術期管理の方針を立て、患者さんご本人およびご家族の方に麻酔法・周術期全身管理について方法・必要性や起こり得る合併症について説明させていただきます。

次に麻酔・周術期管理です。術前診察の情報をもとに麻酔方法を計画し、実行します。手術中の循環管理（血圧や脈拍、尿量など心臓や血液の流れを整えます）、呼吸管理（体の中に十分な酸素を送り込むための環境を整えます）、疼痛管理（手術中、術後に体への最大の負担となる痛みを和らげます）を行います。疼痛緩和のために神経ブロック（硬膜外麻酔、脊髄クモ膜下麻酔、超音波ガイド下末梢

神経ブロック）を全身麻酔に併用する方法を重視しており、年間約3000件の手術の麻酔・周術期管理に携わっています。合併症の多い患者さんや大手術の場合には術後集中治療室に入室し、引き続き厳重な循環・呼吸管理をさせていただきます。

術後には術後痛のコントロールを中心とした術後回診をすることで周術期の全身管理を行っています。術後の痛みや吐き気など、気になることがあればお知らせください。

手術の前後にわたって、患者さんが安全かつ快適に手術が受けられるよう日々努力しています。手術前後に何かご不明な点がありましたら、麻酔科医までご質問ください。



医療機能評価機構の認定を取得

2020年11月審査機関の訪問審査を受け、2021年度より認定を取得することとなりました。

当院では2016年に認定を取得していましたが、5年間の期間満了となりましたので、今回新たに取得することになりました。

■病院機能評価とは

第三者評価機関である公益財団法人日本医療機能評価機構が中立的、科学的・専門的な見地から組織全体の運営管理および提供される医療について評価を行うツールです。





Clinical Department

診療科紹介

歯科口腔外科

歯科口腔外科は口腔（口の中）・顎・顔面の疾患を扱います。

現在常勤歯科医は3名で、うち2名は日本口腔外科学会専門医および認定医です。当科は口まわりの外科処置が必要な方と入院中で開業歯科受診が困難な方の受診が多いので、外科処置と有病者の診療に慣れた衛生士4名、スムーズに診療が行えるよう段取りをする医療事務2名が在籍しており、鎮静処置や有病者の対応に困った際は外来看護師が1名応援に来ます。

患者さんは開業歯科から紹介される抜歯の方が多いのですが、医科開業医から紹介いただく口腔粘膜疾患（真菌症、扁平苔癬、ヘルペスウイルスなど）、口腔腫瘍（義

歯性線維腫や口腔癌など）、顎関節症、顎の骨折や口内出血、有病者の抜歯依頼もあります。当院でがん化学療法、心臓や人工関節などの手術をする方の口腔管理（周術期口腔機能管理）もしています。

令和2年度はコロナウィルスの影響で新外来患者がやや減少し1800名でした。

日本は超高齢社会となり、島根県は日本の最先端を走っています。医療の進歩で血栓・塞栓の予防薬を内服しながら元気に過ごす80代・90代の方が抜歯のため来院します。食事は楽しみの一つですので、口の痛みを取り損食に問題がないようにお手伝いをしています。

施設入所者においては顎が習慣的にはずれ（習慣性顎関節脱臼）、食事介助に困り来院されます。患者さんの体力があれば手術をしますが、手術困難であれば自己血注入療法（血液を関節腔に入れて器質化させる）をします。

高齢者が元気で自分の足で歩けるように骨粗鬆の治療は大切です。以前はビタミン製剤がよく用いられていましたが、近年、より効果のあるビスフォスフォネート製剤が使用されるようになりました。この薬を内服すると、抜歯後顎骨壊死を来す報告があり、開業歯科では対応困難なため当科にいらっ

しゃいます。

また超高齢化およびストレス社会に伴い口の違和感（疼痛や味覚障害）で来院される方もいます。血液検査や真菌（カビ）の検査をして処方や粘膜保清指導をしています。

化学療法はとても進歩しています。多くの患者さんが外来で治療を行い、自宅で過ごすことができるようになりました。疲れると普段痛くない歯が痛くなることがあると思いますが、化学療法中の患者さんは口に違和感が生じやすいので、自宅で過ごし、予定通り化学療法が行えるように介入しています。

何か口にトラブルがありましたら、当科にご相談ください。



Hello Doctor

7月採用医師紹介



脳神経外科

前田 雄洋

まえだ ゆうよう

広島大学から参りました前田雄洋と申します。患者様に寄り添った、そして安心していただける治療を提供できるよう頑張ります。よろしく願います。



認定・専門看護師が増えました！

がん看護専門看護師

9階東 血液疾患センター

小林 沙央

こばやし さひろ



患者さんの「私らしさ」を大切に、ご家族やご友人、ケア提供者の方と一緒に、生活と治療の両立を目指した支援を行っていきます。皆様にとって、親しみやすい、相談しやすい存在となれるように心がけて活動していきます。

糖尿病看護認定看護師

5階東 脳神経センター

千代 直尚

ちしろ なおひさ



「糖尿病」は生活習慣と密接な関係があります。患者さんやご家族が安心して療養生活が送れるように多職種と連携しながら生活環境を整え、患者さんの“その人らしさ”を尊重した看護を提供することに全力を注いでいきます。

大阪へ看護師派遣

新型コロナの感染拡大で医療体制がひっ迫する大阪府へ当院の看護師2名が派遣されました。

かげやま けいこ 影山圭子看護師（写真中央）は高槻赤十字病院へ、やまもと いちなり 山本一成看護師（写真左2人目）は大阪コロナ重症センターへそれぞれ派遣され、4月末から5月上旬の2週間、新型コロナ専用病床で感染者の看護に従事しました。

帰院後の5月27日に記者会見と院内報告会を開催し、お二人の貴重な体験を聞くために多くの記者と職員が集まりました。ひっ迫した大阪コロナ病床での勤務体験は壮絶だったことが伝わりました。いっどこで感染が流行するか分からないので、とにかく感染予防が重要と強く訴えていました。



令和3年度 松江赤十字病院

健康医学講座



病気は早期発見、早期治療が肝心。そしてなにより、正しい知識を学んで病気にならないように予防することが重要です。今年度は、当院ホームページで動画配信いたします。専門の医師や医療スタッフが分かりやすくお話ししますので、ぜひこの機会にご覧ください。

松江赤十字病院
ホームページで
動画配信

6月公開

新型コロナウイルス感染症に向き合うために
今、あらためて認識しておきたいこと

講師 感染症科部長 成相 昭吉



9月公開

薬・その取り巻く環境の変化

講師 薬剤部長 新宮 行雄



7月公開

体重を制する者は糖尿病を制する！

講師 糖尿病・内分泌内科部長 垣羽 寿昭



10月公開

乳がん治療の最新情報

講師 乳腺外科部長 曳野 肇



8月公開

小児のアレルギー疾患について

講師 第二小児科医師 羽根田 泰宏



こちらからご覧いただけます

松江赤十字病院 健康医学講座

検索

<https://www.matsue.jrc.or.jp/publics/index/464/>



【お問合せ先】松江赤十字病院 医療社会事業課 TEL:0852-24-2111(代) <https://www.matsue.jrc.or.jp/>

■病院理念……わたしたちは、『人道』の赤十字精神に基づき地域の医療に貢献します。

■基本方針……

- ① 地域の基幹病院として、説明と同意に基づく「高度」「良質」な医療を提供します。
- ② 急性期病院として保健・医療・福祉・介護機関との連携を進め、最善の医療を行います。
- ③ 救急病院として24時間地域の健康を守ります。
- ④ 赤十字病院として災害救護に貢献します。
- ⑤ 教育病院として次世代の医療人を育てます。

松江赤十字病院『患者さまの権利』

1. ひとりの人間として人格と価値観を尊重される権利があります。
2. 医療提供者との相互協力のもと、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 検査・治療法などの自分が受ける医療の内容について、わかりやすい言葉や方法で説明を受ける権利があります。
4. 説明を十分理解し同意した上で、医療行為を受けるかどうか自分の意志で選択する権利があります。
5. 医療行為の選択にあたって、他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
6. 診療の過程で得られた個人情報、個人の秘密として厳正に保護され、承諾なしには開示されない権利があります。
7. 自分が受けている医療内容を知るために、診療録の開示を求める権利があります。

私たちが、上に掲げた患者さまの権利を尊重した医療を提供するために、患者さまには次のことをお願いいたします。

- ① 自分の健康に関する正しい情報の提供
- ② 医療への積極的な参加
- ③ 病院の規則を守ること
- ④ 研修医、医学生、看護学生などの研修・実習・見学への理解と協力